

数字で見るワイン産業（2018年版）

スペインは世界でも有数のワイン生産国である。栽培面積では世界 1 位にランキングされる。2018/2019 期のワインとぶどう果汁の生産はイタリアおよびフランスに続いて第三位、また、2018 年の輸出総量でも世界最大の輸出国であるが、価格で比較すると第三位となる。

スペインにおけるワイン産業は、経済的観点からだけでなく、社会の中で果たす役割、環境保護の観点からみても重要なものである。また、海外におけるスペインのイメージを代表するものとして、この産業の果たす役割は大きい。

1. 世界市場の状況

ぶどう栽培面積

国際ぶどう・ワイン機構 - O.I.V.(International Organization of Wine and Vine)のデータによると、2018 年の世界のぶどう栽培面積は 2017 年とほぼ同様の状態を維持し、740 万 ha とされる。これはワイン醸造用、生食用、干しぶどう等の生産用あるいは生産予定用のぶどう全部を含めた栽培面積である。

EU のワインの生産能力調整促進政策が終了してより、EU のぶどう栽培面積の減少は目に見えて緩やかになった。2011 年から 2012 年にかけて、EU のぶどう栽培面積は 5 万 4 000ha 減少したが、2013 年から 2014 年では、1 万 9 000ha の減少にとどまっている。2018 年の EU 域内のぶどう栽培面積は 330 万 ha。新しいぶどう栽培面積管理体制により、ヨーロッパ産ワインの年間増産率が 1% になるよう制限されている。

EU 域外のぶどう栽培面積も 2017 年とほぼ同じレベルを維持して約 360 万 ha。主要な牽引役は中国で、中国はスペインに次ぐ、世界第 2 位のぶどう栽培面積を持つ国としての地位を確立し、1.2% の成長率を記録し 87 万 5 000ha に達した。

世界の生産量

OIV は、2018 年の世界の生産量(マストとブドウジュースを除く)は約 2 億 9 200 万ヘクトリットルと予測する。2017 年との比較で 17% の増加となる。

最大の生産国はイタリアで、5 480 万 hl、次にフランス(4 190 万 hl)、スペイン(4 090 万 hl)が続く。

EU 域外では、米国の生産量は 2 390 万ヘクトリットル(+ 10%)で、生産量は伸びてはいるが、米国が 2013 年に生産した最高レベルまでは回復しない見込み。

南半球では、チリ(+35.9%)、アルゼンチン(+22.8%)などの国のワイン生産量の回復が見込まれているが、南アフリカは-12.5%の減少予測となっている。

国別ワイン生産量 (単位: 千 hL)						
出典: O.I.V.のデータをもとにOeMvが作成						
	2014	2015	2016	2017 暫定	2018 予測	構成比率
イタリア	46.504	47.000	45.200	36.700	54.800	18,70%
フランス	44.229	50.000	50.900	42.500	41.900	14,30%
スペイン	39.500	37.700	39.300	32.100	40.900	14,00%
その他のEU諸国	31.243	38.254	31.900	31.200	44.300	15,20%
EU合計	166.232	172.954	164.700	140.700	181.900	62,20%
米国	23.100	21.700	23.600	23.300	23.900	8,20%
アルゼンチン	15.197	13.358	9.400	11.800	14.500	5,00%
チリ	9.900	12.870	10.100	9.500	12.900	4,40%
オーストラリア	11.900	11.900	13.100	13.700	12.900	4,40%
非EU合計	103.768	104.046	108.300	110.300	110.400	37,80%
世界合計	270.000	277.000	273.000	251.000	292.300	100,00%

EUにおける生産状況

O.I.V.の発表したデータによると、EU 諸国のワイン生産量は 1 億8190万ヘクトリットルで、2017 年と比較して約 28.3% の増加が予測される。

2019 年 4 月時点の欧州委員会の予測データによれば、2018/2019 期に EU 域内で生産されるワインとぶどう果汁の量は 1 億 8910 万ヘクトリットルと予測され、2017/18 期と比較して 31.5%の増加が見込まれている。

総量のうちの 96,4%にあたる 1 億 8230 万ヘクトリットルがワインとして醸造されたと見込まれる。内訳は、830 万ヘクトリットルが PDO ワイン(原産地呼称保護 –スペイン語 DOP-Denominación de Origen Protegida 45.5%)、3670 万ヘクトリットルが PGI ワイン(地理的表示保護 同 IGP-Indicación Geográfica Protegida 20.2 %)、120 万ヘクトリットルが POD、PIG のない品種名記載ワイン(6.6 %)、5070 万ヘクトリットルがその他のワイン(27.8 %)と推定される。

ワインの種類別に生産国を見ると、PDO ワインの生産第一位の国はフランスで、2390 万ヘクトリットル。次いでイタリアの 2270 万ヘクトリットル、スペインの 1650 万ヘクトリットルと続く。

PIG ワインの生産量では、イタリアが約 1320 万ヘクトリットル、僅差でスペインが 1290 万ヘクトリットルで続く。PDO、PIG が付かない単独品種ワインでは、スペインが首位を占め、950 万ヘクトリットル。上記に分類されないその他のワインについては、イタリアの生産量が最も多く 1810 万ヘクトリットル、スペインが 1390 万ヘクトリットル、フランス 1180 万ヘクトリットル、4 位のルーマニアは 360 万ヘクトリットル。

ヨーロッパにおけるワイン生産量

出典: EU のデータをもとに OeMv が作成

国	2018/2019 生産量	全体に占める 割合	2017-18 年 シーズン比較	2013-19 年 5 シーズン 平均比
イタリア	55,783	29.5%	+31%	+14%
フランス	49,571	26.2%	+38%	+14%
スペイン	49,522	26.2%	+40%	+14%
ドイツ	10,269	5.4%	+38%	+20%
ポルトガル	6,061	3.2%	-10%	-6%
その他の EU 諸国	17,894	9.5%		
EU 合計	189,100	100%	+31,5%	+13%

ワイン消費量

O. I. V. が 2019 年 4 月に発表した最新のデータによると、世界のワイン消費量は、2018 年の消費量は 2 億 4600 ヘクトリットルでほぼ安定している。が、中国とイギリスにおいて消費量の減少がみられたため、2018 年の総消費量は 2017 年と比較してわずかに減少した。

2018 年の国別の消費量をみると、米国の消費量は 3300 万ヘクトリットルで、2017 年から 1.1%の増加を記録し、世界最大の消費国としての地位を維持している。2018 年、中国では消費に減少がみられた (-6.7%、1800 万ヘクトリットル)。その他の消費減少を記録した国としてはイギリス (-2.6%)、アルゼンチン (-6.3%)、南アフリカ (-4.1%)が目立った。

伝統的なワインの産地であるヨーロッパでは、消費の減少は少なかったが、フランス(2680 万ヘクトリットル)、イタリア(2240 万ヘクトリットル)が僅かに消費量を減らしている。一方、スペイン(+1.9%)、ドイツ(+1.5%)、ロシア(+7.2%)、オーストラリア(+6.8%)、ポルトガル(+5.8%)、ルーマニア(+8.7%)などの国では消費量の増加がみられた。

世界のワイン消費量(単位: 100 万 hL)

出典: O.I.V のデータをもとに OeMv が作成

国名	2015	2016	2017	2018 予測	2017/18 年比	構成比率
米国	31	31.8	32.6	33	1.2%	13.4%
フランス	27.2	27	27.2	26.8	-0.7%	10.9%
イタリア	21.4	22.5	22.6	22.4	-0.9%	9.1%
ドイツ	20.6	20.2	19	20.0	1.5%	8.1%
中国	16.2	17.3	19.3	18	-6.7%	7.3%
イギリス	12.7	12.9	12.7	12.4	-2.4%	5.0%
アルゼンチン	10.3	9.4	8.9	8.4	-5.6%	3.4%
スペイン	10.0	9.9	10.5	10.7	1.9%	4.3%
ロシア	9.3	9.3	11.1	11.9	7.2%	4.8%
オーストラリア	5.3	5.4	5.9	6.3	6.8%	2.6%
ポルトガル	4.8	4.8	5.2	5.5	5.8%	2.2%
総計	241	242	246,7	246	-0.3%	100%

2. スペインにおけるワイン産業

スペインにおけるワイン産業は重要な地位を占める。それは単に、この産業の生み出す経済価値だけによるのではなく、この産業に従事する人口、また環境保全の意味からも、この産業の果たす役割は大きい。

ぶどう栽培面積

O.I.V.のデータによると、2018年のスペインのぶどう栽培面積は 96 万 9000 ha で(97.4%がワイン醸造用、2%が生食用、0.3%が干しぶどう用、0.3%が苗床用)、EU 及び世界で不動の最大栽培面積を有している。これは EU 域内の全ぶどう栽培面積のほぼ 30%を占め、次いでフランスが 23%、イタリアが 22% と続く。また世界の栽培面積と比較すると 13.4%をスペインが占める。スペインのワイン製造の歴史は古く、ローマ時代にまで遡るが、大規模な輸出産業として発展したのは近年になってである。

スペインにおけるぶどう栽培

地理的位置関係、気候の違いや土壌の多様性が、イベリア半島や周辺の島々を、非常にバリエーション豊かなワインの産地とならしめている。スペインには 17 の地方自治州があるが、そのすべての地域でぶどう栽培が行われている。しかし、全体の約半分を占めるのがカスティーリャ=ラ=マンチャであり(473,331 ha、ぶどう作付面積の 49.5%)、世界最大のぶどう栽培面積を誇っている。次いでエストレマドゥーラ(8 万 6361 ha、9%)、カスティーリャ=イ=レオン(6 万 8369ha)、バレンシア(6 万 1317ha)。この主要4地域に続くのが、カタルーニャ、ラ=リオハ、アラゴン、ガリシア、ムルシア、アンダルシアである。

減反政策が終了した後のスペインのぶどう栽培面積は安定している。2018年にスペイン農業・漁業・食糧省が発表した面積は96万758haで、前年2017年が95万3,607haであったことから、わずかながら増加がみられた(7,151ha、+0.7%)。2017年との比較で栽培面積を最も広げたのはエストレマドゥーラで(+6.3%)、カスティーリヤ・イ・レオンとカナリアス諸島(+3%前後)、バレンシアとカタルーニャがそれぞれ+2%前後の増加を記録し、ラ・リオハも約1%増加した。

スペインには、原産地呼称保護(PDO)認定ワインを生産している地域が90あり、68地域に原産地呼称(DO - Denominación de Origen)、2地域に特選原産地呼称(DOC - Denominación de Origen Calificada)、6地域に地域名称付き高級ワイン(Vino de Calidad con Indicación Geográfica)、14地域に単一ぶどう畑限定高級ワイン(Vino de Pago)がそれぞれ認められており、各生産地でヨーロッパの基準に従って、生産量、醸造法、品質管理のすべての面で厳しい管理が行われている。また、上記の他に地理的表示保護(PGI)が認められたワイン生産地域が42か所ある。

スペインで最初に原産地呼称が認められたのは1932年で、ヘレス(Jerez-Xérès-Sherry y Manzanilla - Manzanilla-Sanlúcar de Barrameda)、マラガ(Málaga)、モンティーリヤ・モリレス(Montilla-Moriles)、リオハ(Rioja)、タラゴナ(Tarragona)、プリオラート(Priorato)、アレーリヤ(Alella)、ウティエル・レケーナ(Utiel-Requena)、バレンシア(Valencia)、アリカンテ(Alicante)、リベイロ(Ribeiro)、カリニエナ(Cariñena)、ペネデス(Penedés)、コンダード・デ・ウエルバ(Condado de Huelva)、バルデペーニャス(Valdepeñas)、ラ・マンチャ(La Mancha)、ナバーラ(Navarra)とルエ(Rueda)であった。

英語版 Winesfromspain のサイトから、スペインの DO/ PGI マップをダウンロードすることができますのでご利用ください。

<https://www.foodswinesfromspain.com/spanishfoodwine/global/wine/all/index.html>

発表されている最新のデータによると、収穫されるぶどうのうち、51.1%が赤ワイン及びロゼワイン用で、48.9%が白ワイン用である。スペインで栽培されるぶどう品種は、生産量の多い順から、アイレン(23.5%)、テンプラニーリョ(20.9%)、ポバル(7.5%)、ガルナチャ・ティンタ、モナストレル、パルディナ、マカベオ、パロミノである。この中で、赤ワイン用はテンプラニーリョ、ポバル、ガルナチャ・ティンタ、モナストレルで、残りは白ワイン用である。

一方、スペイン国内でのワイン消費量は気がかりな数値を示し続けている。現在のところ、一人当たりの年間消費量は20Lを下回り、ヨーロッパ諸国の中でも下位に位置する。しかしながら外食産業や食品の消費動向に回復がみられ、増加の兆しがみられる。

スペインにおけるワイン生産量

ワイン産業市場情報システム (INFOVI – Sistema de Información de Mercados del Sector Vitivícola) が 2019 年 4 月に公表したデータによると、2018/2019 期のワインの生産量は 4480 万ヘクトリットルで、特に生産量が減った前期に比べると+39%となった。1260 万ヘクトリットルの増産である。

スペイン農業・漁業・食糧省が 2019 年 3 月に発表した調査報告書「栽培面積及び生産の伸びについて」によると、2018/2019 期のワインとぶどう果汁の生産量は 5036 万ヘクトリットルで前期より約 42%の増加としている。このデータには、濃縮還元ぶどう果汁と部分発酵マストの生産が含まれている。

3. 産業の構造

現在、スペインのワイン産業は、近代化とリノベーションの変換の重要な時期にある。2000 年以来、再転換がなされてきたぶどう栽培地の面積は 13 万 ha を超え、このために 8 億€に及ぶ投資が行われている。スペインでは約 4000 のワイナリーがスティルワイン、発泡性ワインやリキュールワインの生産に従事している。その大部分が小規模な、国内資本または家族経営で運営されるものであるが、一方では、かなりの数の農業協同組合も組織されている。

しかし、次のような大手ワイナリーの名を目にしたことはあるだろう。Freixenet、J. García Carrión、Codorníu、Arco Wine Invest Group、Grupo Domecq Bodegas、Grupo Miguel Torres S.A.、Félix Solís Avantis、Grupo Faustino。

つまり、産業構造としては、小規模ワイナリー及び協同組合と大規模企業が共存しており、大手ワイナリーは、バラエティー豊かな製品を提供するために、様々な地方にワイナリーを所有している。生産の全過程で品質管理を徹底するため、自社用のぶどう畑を購入したり、作付面積を拡大したりするワイナリーもあるが、他のぶどう栽培農家からの原料となるぶどうの買付けや、協同組合からワインに加工されたものを購入している場合もある。また、より幅広い高品質なワインを生産するために、ワイナリーの 신설、設備・施設の改良、熟成方法の技術開発のために多額な投資が行われてきたが、昨今の経済危機の影響を受け、投資レベルは低下した。その状況下でも、多くのワイナリーが、新しいぶどうの品種やその土地固有の品種を使って、試行錯誤を繰り返し、技術革新を行いながら、今の時代の消費者の好みにあったワインの生産を行っていることは注目すべき点である。

高品質ワインのワイナリー数をもっとも多いのは特選原産地呼称 DOCa リオハで(801)、続いて DO カバ(390)、DO リベラ・デル・ドウエロ(310)、DO ラ・マンチャ(269)、DO カタルーニャ(202)、DO ペネデス(173)、DO リアス・バイシャス(184)である。

ワイナリーの刷新に際し、世界的に著名な建築家に依頼して新ワイナリーの建設を行う動きも起こり、例えばリオハのドメック(Domecq)、ボデガス・イシオス(Bodegas Ysios)はサンティアゴ・カラトラバ氏設計による。また、CVNE のワイナリーはフィリップ・マジエール氏設計、マルケス・デ・リスカル(Marqués de Riscal)はフランク・O・ゲイリー氏設計による。ザハ・ハディッド氏設計による R・ロペス・エレディア(R. López Heredia) の店舗や、ナバーラのボデガス・チビテ (Bodegas Chivite) のためにラファエル・モネオ氏が設計したセニョリオ・デ・アリンサノ (Señorío de Arínzano) が挙げられる。

ワイン業界は非常に活発な動きをみせている。市場集中度も高く、上位 5 社で市場の約 28%を占めている。外国資本の参入については、大手企業においてはそれほど大きくはないが、海外での販売力を高めるために、他国の同業他社とのジョイントベンチャーを行うことが増えている。同様に、激戦化する海外進出のプロセスに共同して取り組むため、マーケティングの専門家と提携するケースも増えている。

4. 輸出

世界の輸出状況

ワイン業界において貿易取引はますます重要度を増している。O.I.V.の統計によると、2001 年から 2005 年の 5 年間で、年間平均 7220 万ヘクトリットルであった取引量が、2018 年には 1 億 140 万ヘクトリットルに増加すると予測されている。

数カ国の税関データを集計した GTA(Global Trade Atlas) の統計をもとにして世界の貿易取引額を見ると、2017/2018 期の世界のワイン及びマストの貿易取引額は 313 億 3580 万€に達している。O.I.V.は、すべての国の輸出の総量を世界市場として定義しての統計を作っており、それによると、2018 年は前年よりも金額ベースで約 1.2%の伸びを記録したが、量ベースでは収穫期が短くなったため-4.9%の減少。平均販売価格は 3.09€/L で 2017 年より 6%の伸び。

同じく GTA の 2018 年のデータによると、スペインは数量ベースで、ワインとぶどう果汁の生産国として世界第一位 (2010 万ヘクトリットル)の生産国で、金額ベースでは 29 億 3960 万€を記録している。平均的なスペインワイン価格はリットル当り 1.46€で、17.6%の増加となっている。しかしながら、その他の主要ワイン供給国の平均価格はリットル当り 2.83€であり、スペインワインはかなり安価といえる。

スペインに続く世界的なワインの供給国はイタリアで 2018 年に 1980 万ヘクトリットルを輸出している。しかしながら価格においてはフランスが俄然第一位を占め、取引額 93 億 6110 万€は、これに続くイタリア(62 億 300 万€)を大きく引き離している。量ベースではフランスの輸出量は 1410 万ヘクトリットルで、スペインやイタリアと比較するとその差は大きく、したがって平均販売価格は両国にくらべて相当高いことを示す。2018 年にフランスから輸出されたワインのリットル当りの平均価格は 6.65 €で、世界的なワインの生産国トップ 12 の平均販売価格と比べても最も高い。フランスと輸出で競う、イタリア(3.94€/L)、スペイン(1.46 €/L)と比較しても、その差は著しい。

イタリア、スペイン、フランスの3カ国を合計すると、2018年のワインとぶどう果汁の輸出は、量ベースで世界総計の52.8%、金額ベースで58.8%を占める。前年との比較で動向をみると、販売量減少の主な原因はスペインとなるが、それでも販売量で世界第一位の地位を占めている。つまり、減量はあったが、平均販売価格の増加があったため、スペインワインの輸出売上高を上げたことがわかる。

一方イタリアワインは価格が大きく値上がりしたため、輸出量では減少を記録。フランスも輸出売上高を増加させている。

これらのヨーロッパの3大生産国に続き、量ベース・金額ベースともにオーストラリアが第4位、チリが第5位、第6位については、金額ベースで米国、量ベースでは廉価なワインを大量に売り上げた南アフリカがそれぞれ分けあった。

スペインのワイン輸出状況—2018年

スペイン国税庁・AEAT (Agencia Estatal de Administración Tributaria)によると、2018年のスペインのワインの輸出売上高は増加したが(+1.9%)、輸出量は平均販売価格が17.9%高くなったため減少となった(-13.6%)。昨年の輸出総量は19億8610万リットル、29億1270€で、平均販売価格は1.47€/L。絶対値としてスペインの輸出量は前年から3億1150万リットル下回ったが、その結果の売上高では5480万€増額させている。平均販売価格の上昇は0.23€。

価格ベースで、売上高はPDOボトル詰めスティルワインを除き、ボトル詰めスティルワイン、スパークリングワイン、バルク詰めスティルワインのすべての種類で増加した。

量ベースでは、2018年末でボトル詰めスティルワイン、リキュールワイン(シェリー等のワイン)、微発泡性ワインのすべての種類で輸出は減少。バルクワインに関しては、輸出量はすべての種類で減少したが、品種表示ワインについては10%の増加がみられた。

スペインワインの2000年以降の輸出動向を検証すると、売上高は2018年に最高値を記録したといえる。2000年以降の年間平均成長率は価格ベースで4.8%、量ベースで4.7%、平均販売価格の上昇率は僅か、今世紀にはいつてからわずか0.2%の増加である。リキュールワインとバルク詰めPDOワインを除き、すべての種類のワインが2000年以来継続した成長を続けている。

2018年末の段階で、スペインのバルクワインを除く、ボトル等に詰めて輸出されたワインは、スティルワイン、スパークリングワイン、リキュールワイン、微発泡性ワイン、バッグインボックスワインの売上高は、少額ながらも伸びを記録し(+0.4%)、輸出量は減少(-9.8%)、平均販売価格は11%の上昇となった。輸出総量は9億5450万リットル、輸出総額23億1330万€、平均価格は2.42€/L。実績は種類ごとに異なる。スパークリングワインは価格ベースで10%(5億690万€)、数量ベースで1.5%(1億8560万リットル)の好調を記録して2018年を終えた。平均販売価格は8.5%値上がりして2.73€/L。これらのうち、価格の77%、輸出量の66%がDOカバのスパークリングワインである。

ボトル詰めスティールワインに関して、PDO ボトル詰めワインは最も多く輸出された品目ではあるが、ボトル詰めワインの分類のなかで、唯一売上高を下げた品目でもあった(-5%)。2018年のPDO ボトル詰めスティールワインの輸出は3億2890万リットル(-11%)、12億590万€(-5%)、平均販売価格は3.67€/L。

ボトル詰めスティールワインに分類されるその他の品目では(PGI、品種表示ワイン、表示なし)、売上高では成長を記録、輸出量は減少という結果になった。

種類別スペインのワイン輸出

出展: スペイン国税庁のデータをもとに OeMv が作成

単位: 100 万€	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年	2017/18 年比
DO ボトルワイン	1,198.7	1,221.0	1,269.7	1,205.9	-5.0%
DO バルクワイン	27.2	26.9	25.6	25.7	0.6%
DO 無しボトルワイン	412.4	404.1	449.5	471.0	4.8%
DO 無しバルクワイン	476.9	467.5	564.6	624.5	10.6%
発泡性ワイン	438.0	429.4	460.3	506.9	10.1%
リキュールワイン	65.7	67.8	65.2	61.7	-5.3%
微発泡性ワイン	22.2	28.2	23.0	17.0	-26.0%
合計	2,641.2	2,645.0	2,857.9	2,912.7	1.9%
単位: 100 万リットル					
DO ボトルワイン	359.3	364.4	369.9	328.9	-11.1%
DO バルクワイン	24.8	25.1	24.1	19.7	-18.5%
DO 無しボトルワイン	429.7	399.6	439.8	373.5	-15.1%
DO 無しバルクワイン	1,373.1	1,231.1	1,245.2	1,049.5	-15.7%
発泡性ワイン	170.3	168.3	182.8	185.6	1.5%
リキュールワイン	20.3	18.3	17.5	16.3	-6.9%
微発泡性ワイン	15.8	19.4	18.3	12.8	-30.2%
合計	2,393.3	2,229.2	2,297.6	1,986.1	-13.6%
単位: €/1 リットルあたり					
DO ボトルワイン	3.34	3.32	3.43	3.67	6.8%
DO バルクワイン	1.09	1.07	1.06	1.31	23.3%
DO 無しボトルワイン	0.96	1.01	1.02	1.26	23.4%
DO 無しバルクワイン	0.35	0.38	0.45	0.60	31.2%
発泡性ワイン	2.57	2.55	2.52	2.73	8.5%
リキュールワイン	3.23	3.70	3.73	3.79	1.7%
微発泡性ワイン	1.41	1.45	1.26	1.33	6.1%
合計	1.10	1.19	1.24	1.47	17.9%